

腹腔鏡下胆嚢摘出術における開腹移行率

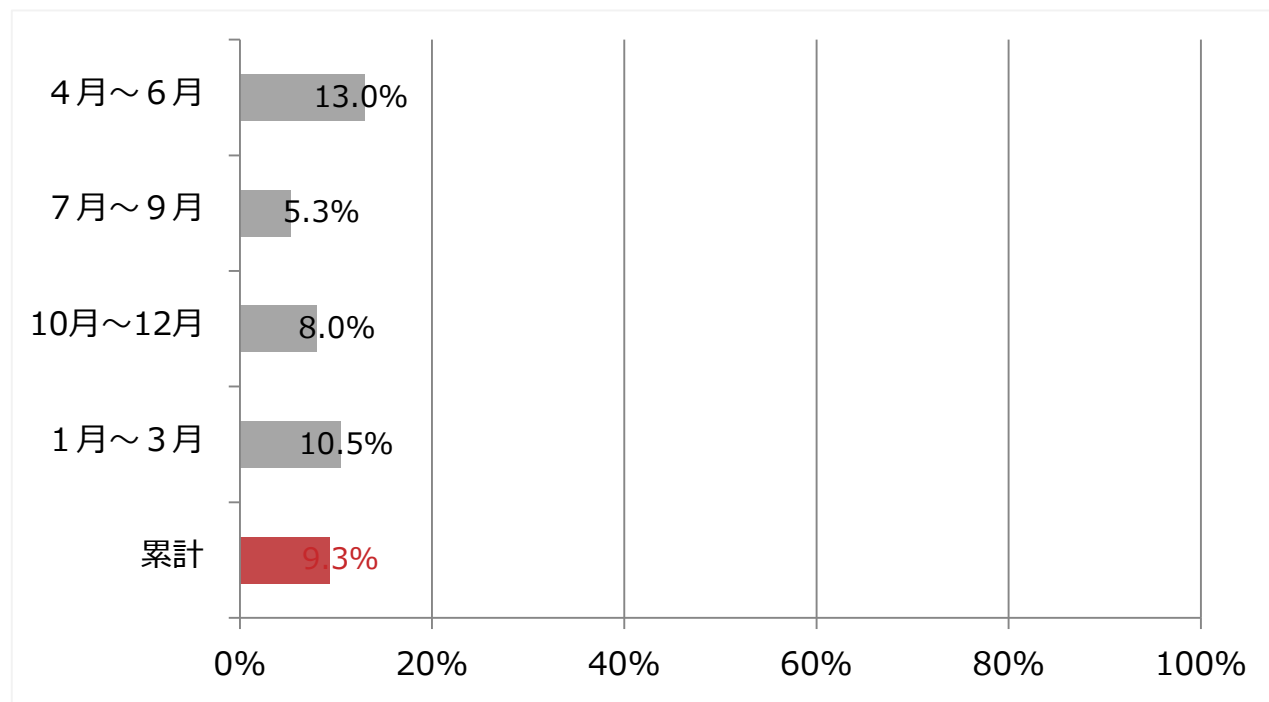
9.3 %

(平成31年4月～令和2年3月)

指標の説明

腹腔鏡下胆嚢摘出術における開腹移行は、過去に手術歴がある場合の強度癒着や胆管・血管損傷があった場合に行われます。したがって開腹移行率は術前検査や手術が適正に行われているかを見る一つの指標となります。

(対象症例数：86例)



値の算出方法

(開腹に移行した数) / (腹腔鏡下胆嚢摘出術数) × 100 (%)

考察

腹腔鏡下胆嚢摘出術における開腹移行率は9.3%であり、術前検査、手術適応判断が適正に行われ、安全に治療されています。今後も鏡視下手術は安全、確実に施行されるべきであり、術中に開腹手術のほうが安全で確実な手術と考えられる場合は躊躇することなく開腹胆嚢摘出術へ移行すべきであります。